芸術祭が始まる

東京藝術大学美術学部絵画科准教授
アーツ前橋チーフキュレーター
宮本　武典

⑬ 桐生で東京のアトリエ問題を考える

アーティストを目指す美大・芸大の学生たちが、卒業して最初に直面するのはアトリエ問題です。大学生活の集大成なので、ほとんどの学生が卒業制作は大作に挑みます。絵画専攻の４年生たちは広いスペースを与えられ、大画面に思う存分向き合うのですが、彼・彼女は制作の終盤になって気付くのです。「こんなに大きな絵を何か月もかけて描ける時間と空間は、この先の人生で二度と与えられないかも…」と。

これからも日本のアートの中心は東京であり続けるでしょう。美術大学のトップ校、影響力のある美術館やギャラリー、目の肥えたアートファンにコレクター、全てが東京に一極集中しています。文化的刺激と世に出るチャンスを求めて美大生が卒業後も東京で活動したいと願うのは当然のことです。

▲▼伊東さんの作品《Sun Room》

しかし東京に住み続けるには、高い家賃を支払うための長時間労働が不可欠で、頑張ってその権利を手に入れても、大作を描くような空間的余剰は望めないでしょう。

狭いアトリエは物理的な制約だけでなく、創作者の思考や身体性を内向きにします。同じ作画でも漫画は、むしろ狭小空間の方が物語に没入できるのかもしれません。日本がこの分野で突出していることと、コンパクトな住宅環境には因果関係があると私はみています。一方で現代アートは大作主義の傾向が強まっており、社会との密接な関わりも求められます。これらの社会的要請に応えるには、それを可能にするアトリエが必要なのです。

この春、地域おこし協力隊として東京藝大出身の伊東五津美さんが、これまで拠点にしていた都内のシェアハウスを出て桐生に移住しました。私が準備している芸術祭「桐生AIR(Artist In Residence)」の運営を担ってもらうのですが、彼女は立体作品を作るので、さっそく東京ではとても望めない大きな空き家をアトリエ兼住居として借りたようです。空間的制約から解放され、彼女が表現者としてどれくらい飛躍するか、楽しみに見守っていきます。「桐生AIR」は、東京のアトリエ問題と桐生の空き家問題をつなげるプロジェクトでもあるのです。

広報きりゅう　令和８年５月号 No.1598
発行／編集　桐生市共創企画部魅力発信課
〒376-8501　群馬県桐生市織姫町１-１
☎0277-46-1111　FAX0277-43-1001
HP https://www.city.kiryu.lg.jp/

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する３歳まで（申し込み時）の桐生っ子を募集します。

申右の二次元コードから電子申請でお申込みください。

問魅力発信課（☎46-1049）

窪田 桜ちゃん
４歳

藤田 一生ちゃん
１歳５か月

ＮＰプログラムを開催します

育児・家事・仕事などの身の回りの悩みを母親同士で共有し、個々に合った解決方法を見つけていく子育て支援プログラムです。託児室があるので、母親同士でゆっくりとお話しすることができます。

期６月８日から７月13日までの毎週月曜日※原則全日程の参加となりますが、ご都合の悪い日はご相談ください。

時午前10時～正午

場保健福祉会館

対０歳～３歳児の母親※託児室の利用は原則未就学児まで

定８人（先着順）

持筆記用具※託児を利用する人は、おむつ・着替えなど

申電話または右の二次元コードからお申し込みください。

問子育て相談課母子保健係（☎43-2009）